

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	瀬谷中央保育園	種別：	認可保育所
代表者氏名：	施設長 大沼千鶴子	定員（利用人数）：	90（91）名
所在地：	246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸1-35-28		
TEL：	045-304-3661	ホームページ：	https://www.ans.co.jp/n/seyachuo/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2005年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人横浜育愛会		
職員数	常勤職員： 26名	非常勤職員：	4名
専門職員	保育士 19名	栄養士	1名
	看護師 1名	調理員	4名
	用務員 1名		
施設・設備の概要	居室等 保育室6室、ホール、調理室、事務所、園長室、先生たちの部屋2室、調理員休憩室	設備等 可動式舞台、園庭、プール、調乳室、沐浴室、絵本コーナー、駐車場5台、配膳室、職員シャワー室	

③理念・基本方針

保育理念

- ・「豊かな育ち」 心も体も健やかに育つ。園と家庭が連携し、良き環境をつくる。
- ・「共に育む」 愛と真心の元、保育士も保護者もそれぞれの役割を果たし、子どもの良き成長のために援助支援する。
- ・「共に喜ぶ」 保育士は、子どもの成長発達を喜び、専門職に生きがいと喜びを感じる。保護者は、我が子の成長を喜び、保育者からの援助支援に感謝と喜びを感じる。

保育方針

- ・個々の発達の違いを尊重し、心と体の健やかな子どもにそだてる。
- ・健康に留意して、丈夫な身体を持つ子どもにする。
- ・遊びと生活の中で活動する意欲を持ち、生き生きと過ごせる子どもに育てる。
- ・友達を思いやり物を大切にする子どもに育てる。
- ・自然や社会との関わりを持ち、豊かな心を持つ子どもを育てる。

④施設・事業所の特徴的な取組

当園は駅近くの商店街を抜けた大きな公園住宅の中に立地しています。園では同じ瀬谷区内にある系列幼稚園の送迎バスを使った園外保育を月1回行っています。行き先は自然とかかわれるような園周辺の公園をはじめ、幼児クラスでは、いちご狩りや動物園など少し離れた場所にも出かけています。さまざまな経験をするのと同時に公共の場でのルールを学ぶ機会にもなり、保育方針の実現につながっていることが大きな特徴です。さらに年長クラスは、系列幼稚園の5歳児との交流を重ねています。卒園遠足としてソリ遊びのできる遊園地に行きいっしょに遊ぶ機会があり、就学に向けた取り組みにもなっています。

体操・リトミック・絵画造形については、定期的に専門の外部講師が来園して子どもたちにさまざまな体験を提供しています。一人ひとりの子どもには得意なことや苦手なことがありますが、楽しみながら音楽や製作に触れることで、単に技術を習得するだけでなく、友だちと協力することや達成感を味わうことなど、幼児期に必要な育ちを得ることができるようになっています。体操指導では1歳児からの積み重ねにより、就学前までには縄跳び、鉄棒の逆上がりについてほぼ全員ができるようになることで、就学時の大きな自信につながっています。

園では、夏祭り、運動会、おゆうぎ会をはじめ、七夕、芋ほり、七五三、クリスマス会、餅つき、豆まきなど、季節が感じられるような行事を大切に考え、多く取り入れています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月24日 (契約日)～ 2020年11月25日 (評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	2回(2015年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

恵まれた施設環境の中、子どもたちは心身をはぐくみ健やかに成長しています

園の建物は余裕を持った造りになっており、各保育室のほかに園庭と大きなホールがあります。ホールは吹き抜けになっており、上から下の子どもたちの遊びをながめることができます。この恵まれた環境を生かし、各クラスで順番に園庭遊び、体操遊びを取り入れ、ホールでもリトミックや体操、行事などが行われています。リトミックでは小さい子が大きな子どもの動きを見てまねるなど、ほほえましい光景が日常的に見られます。ホール2階の通路には書架が設置され、たくさんの絵本や図書が並べられています。子どもたちはお気に入りの絵本を選んで保育室入り口のラックに並べたり、本を借りて家で保護者に読んでもらうなど本に親しんでいます。

子どもの様子を保護者と共有した保育ができるよう配慮をしています

日々の子どもの情報は連絡帳や登降園時に口頭で保護者に伝えていきます。職員の配置でも担任が保護者とかかわれるよう配置しています。日々の保育活動は活動ボードで伝えていきます。毎月の指導計画は全クラスにおろされ、全職員が全クラスの計画を確認しています。全職員が全ての保護者と何らかの場面でかかわれるようにすることで、全ての保護者にとって相談しやすい相手に相談することができるよう配慮しています。「保育時間、睡眠引継ぎ表」や職員連絡ボードなど、さまざまなツールを使い職員間で密に情報共有しています。昼礼は全職員が参加できるよう2回に分けて行っています。家庭から相談があった場合、会議録や昼礼で周知し対応します。

◇改善を求められる点

外部研修の内容を職員会議などで報告し積極的に共有化されると良いでしょう

園内研修では園長や看護師などが講師となって、嘔吐処理、手洗い指導など現場で日常的に必要な研修を行い、全職員が参加しました。コロナ禍での外部研修については、全職員参加は困難でした。その中で、キャリアアップ研修では、一部ですが研修後の報告書が提出されていないことや、職員間で共有できていない場合が見られました。研修で得た知識は宝であり保育の質向上の力と捉え、研修後は報告書を作成し、職員会議や昼礼などでポイントを報告し共有を図られると良いでしょう。また、コロナ禍の状況を見定めて、今後は職員個々の経験や適性を考えて外部研修に参加し知識や技術を習得し、さらなる保育の質の向上につなげられると良いでしょう。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

日常の保育や様々な記録作成で時間が過ぎていく中、自分たちのやっていることを整理された視点から丁寧に見直し、自己評価したり課題を見つけたりする良い機会になりました。評価項目は多く、時間を要しましたが、その分評価結果に対して、自園のこととして、更には自身のこととして受け止める姿勢が持てました。利用者アンケートにより保護者の方の期待、要望を知ることが出来たほか、評価していただくコメントは励みになりました。今後ますます保護者の方に信頼していただけるようきめ細かく対応してまいります。

今年はコロナ渦で外部研修の機会が減ったことや人数制限により職員が研修に参加する回数が減ってしまいました。評価の中にも「外部研修で得た知識は報告し職員間で共有を図ると良いでしょう。」と書かれています。数少ない研修の機会を生かし、せっかく受けた研修での知識を効率的に共有できる方法を考え、個々の職員のスキルアップと園全体の保育の質向上につなげたいと思います。